

綾扇會



綾扇会

日時 平成二十七年七月十二日(日)

十二時開場

十二時三十分開演

於 国立劇場小劇場

御挨拶

夏の陽ざしも一際の季節になって参りました。皆様にはお健やかな事と存じ上げます。

さて、母・故藤間章江の高弟藤間綾さんと、長女藤間綾由貴さんが主宰の《綾扇会》が国立劇場に於きまして賑々しく開催される運びとなりました。誠に嬉しく、実に喜ばしい限りでございます。綾さんの舞踊に注いで参りました熱い想いが、綾由貴さんを受け継がれ、真面目に研鑽を重ね、門下の方々へも厳しく温かくご指導をなさっていられると聞いております。先日歌舞伎座にて開催されました「藤間流大会」では《牡丹花抄》という作品で実力を発揮されました。また子供さんたちへの地域普及活動も継続して実施され成果をあげています。このように母娘して着実に斯道に精進なさる姿に心より敬服しておりますが、今年一月に心の支えでございましたご夫君「木村俊介」様を失われた事、誠に残念でなりません。幸い娘婿の望月朴清様が綾さんをととても大事にされ、心強い協力をさりげなく添えておられます。それはそれと致しまして、門下生一同が心を合わせ今日の舞台でそれぞれに努力いたしましたお稽古の成果を発表いたします。皆様には惜しみないご声援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



御挨拶

日ごとに日射しも強くなり、木陰が恋しくなりましたが、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本日は、「綾扇会」にお運び頂きまして誠にありがとうございます。国立劇場にて行います「綾扇会」も、久々で七年振りでございますが、この七年間に稽古場に於いて悲喜交々としたことがございました。

長い間、お稽古を続けてまいりました門弟や、私が親しくさせていだいていました藤間欽紫香さんが他界してしまいました。

また、本年一月には「綾扇会」の受付から楽屋にと走り回って、私のサポートをしてくれました主人が先立ってしまいましたので、お稽古場も淋しい空気が漂いますが、反面、綾由貴が主宰しております「音鼓ねこの会」には、多くの子どもさんがお稽古に通ってきて、本日も五つの作品に踊ったり、新名取ができるなどと、明るく楽しい光景も見受けられます。

さらに本日は、藤間仁章先生に補導をいただき、「茶筌ちしん売り」を一緒に踊っていただきます。併せて藤間亜寿賀様に「二人にん椀久」の松山で賛助出演いただくなど、お二人様に華を添えていただきます。

末筆になりましたが、本日の演奏の皆様、各スタッフの皆様の御力添えに、厚く心から御礼申し上げます。

お客様には、未熟な芸でお目間怠いと存じますが、皆様の絶大なるご声援のもとに踊りますので、お時間が許されます限り、ご高覧くださいませよう、門弟一同と共にお願ひ申し上げます。

藤間 綾

藤間 綾由貴



名披露目

この度家元様からお許しを得まして、左記の一名を新名取の列に加
えさせていただき、名取披露をさせていただきます。



長唄 水仙丹前

山口恵以子事

藤間由以

カルチャーセンターでお稽古を始め、綾扇会に入門して十八年、ま
だまだ未熟でおこがましくはございますが、向後いよいよ芸道に精進
いたします所存でございますので、一層の御指導を賜りますよう宜し
くお願い申し上げます。

番組

- 一、城
- 一、えひがさ
- 一、関の小万
- 一、菊づくし
- 一、元禄花見踊
- 一、君が代松竹梅
- 一、玉 兔
- 一、あやめ浴衣
- 一、三ツ面子守
- 一、長唄 新鹿の子
- 一、清元 扇獅子
- 一、長唄 都 鳥
- 一、長唄 水仙丹前
- 一、長唄 橋 弁 慶
- 一、清元 吉野山
- 一、清元 傀 儡 師
- 一、長唄 二人 椀 久
- 一、清元 茶 筍 売り

出演者

- 特別出演 藤間 仁 章
- 賛助出演 藤間 亜寿賀
- 藤間 綾祥朱
- 藤間 寿三智
- 藤間 匡 志
- 藤間 雄太郎
- 藤間 由 梨
- 山口恵以子事 藤間 由 以
- 水戸 麻理菜
- 秋山 萌々音
- 小久保 結
- 本山 愛
- 市谷 雪乃
- 古屋 璃 瀬
- 鈴木 明 音

- 伝統文化子ども教室「音鼓の会」
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|----|----|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 藤間 綾由貴 | 藤間 綾 | 会主 | 補導 | 藤間 仁 章 | 寺平 朋和 美 | 内藤 恋 里 | 松本 鈴 美 | 大木 優 子 | 加藤 紫 花 | 立木 優 子 | 松田 笑 真 | 澤村 笑 真 | 和木 笑 真 | 松田 笑 真 | 西田 笑 真 | 南田 笑 真 | 鎌田 笑 真 | 佐藤 笑 真 | 宮内 笑 真 | 長谷川 笑 真 | 井上 笑 真 | 小川 笑 真 | 中村 笑 真 | 森川 笑 真 | 森島 笑 真 | 南島 笑 真 |
|--------|------|----|----|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

一、城

藤間 匡 志
藤間 雄太郎

天守閣・櫓・大手門など、武將の居住地への防護として建てられた城は、荘厳さと建築美から、武將が領地を支配した象徴として讃えられています。

「大和楽 城」は、落城し、過去の栄華を偲ぶ「荒城の月」と異なつて、現存する城郭や大手門を眺めて、武將の栄華や、凄まじい戦いを連想します。

一、えひがき

寺平 朋美 松下 恋々
内藤 果和里 和田本 鈴子

昨今は日傘からパラソルに変わり、黒の布地のパラソルが流行っています。本日踊る子どもたちは、幼稚園の年中・年長の園児で、絵日傘を持って、楽しく踊ります。

一、関の小方

大木 有美 立木 紫那
加藤 優花 松下 莉子

若衆歌舞伎の踊りとして伝わったもので、唄はまだ長唄という名がつけられていない時代の長唄で、藤間流に子供さんの手ほどき曲として残った貴重な踊りです。娘の姿で花笠を持って踊ります。

一、菊づくし

渡辺 笑真 和田本 京子
澤村 栞凜 鉾木 綾音

咲き乱れた菊の美しさ、気高さをあらわした菊の花のついた手持傘を持って踊ります。

長唄

一、元禄花見踊

松田 貴奈 加藤 紗彩奈
西澤 幸子 佐藤 朱音
南 真梨菜 宮内 麻名
鎌形 希海

美しく楽しく、如何にも花見らしい旋律のこの曲は、明治時代に作られました。

上野の山の満開の桜を、元禄時代の風俗で見物する人々が、賑やかで華やかに行き交う情景を描写しています。

「さくらさくら」や「越後獅子」とともに和洋合奏に編曲され、海外にも知れ渡っています。

一、君が代松竹梅

長谷川 あゆ美 中川 茉南
井上 智 菜 森 優季
小久保 凛 朱 島 笑 花
田村 夏子 南 桃 夏

松・竹・梅は、古来から目出度い植物とされ、様々な邦楽ジャンルの題材となつて作曲されています。

「長唄 君が代松竹梅」は、唄い出しに「君が代は恵かしこき高砂の…」とあるところから題名になっています。

子の日の松や羽衣の松、あるいは降り積む雪にめげぬ竹の風情、梅の数々の有様が詠いこまれていく品の良い曲です。

一、玉 兔

鉾 木 明 音

この曲の構成は、おとぎ話「カチカチ山」のストーリーで展開します。大きな月から兔が飛び出し、軽快な節で影勝団子を搗く振り、狸と立廻る仇討ちの物語り等、極めて飄逸な踊りです。

一、あやめ浴衣

秋 山 萌々音

あやめの花や八橋などの舞台装置から涼しさが感ぜられるこの曲は、「菖蒲浴衣」という浴衣の発売を機に作られた演奏曲で、江戸時代のコマージュ・ソングです。

その後各流派によつて舞踊化されたと云います。丹後の節句から浴衣を着る頃の季節感や、舟遊びなどが爽やかに詠みこまれていて、賑やかで陽気に、そして粋な風情もあつて、舞踊会で踊られる曲として人気の高い長唄の曲です。

一、三ツ面子守

小久保 結

江戸時代、町屋の子守娘が赤ん坊をおぶつて、お祭りを買ってきた三つのお面を、笹の枝にぶら下げて帰る途中、鞆をついたり、お面をかぶつて道化した踊りを見せるなど、むづかる赤ん坊をあやします。

三ツ面（おかめ・恵比寿・ひよつとこ）をかぶつた踊りは、一つ着物で男性が踊っても、また女性が踊っても、おかめの面を用いる際は女になりきり、恵比寿とひよつとこの面は、子守娘が踊っているのです。上半身は男を現し、下半身は女性の気持ちで踊る難しい曲です。

長唄
一、新鹿の子

水戸 麻理菜

この曲は「屋敷娘」と「娘道成寺」の曲をミックスしたもので、幕開きは「屋敷娘」の部分を用いた曲から始まります。続いて「娘道成寺」の町娘姿の手踊りへ言わず語らず我が心……」や、マリ唄へ恋の分里……」へと展開し、へ梅とさんさん桜は……」の部分振り出し笠を用いて踊ります。

清元
一、扇獅子

芸者 藤間 寿三智
半玉 古屋 璃 瀬

獅子ものと言うと猛々しく勇壮な踊りを想像しますが、この扇獅子は、春夏秋冬が唄い込まれていて、扇を二枚重ねて獅子頭に見立て、その先に紅白の布をつけ、それを振りながら優雅に踊る振りがついています。

古屋璃瀬さんは小学五年生で、親娘共演です。

長唄
一、都鳥

藤間 由か梨

この曲は隅田川のゆかしい名物の一つであるところの都鳥を主題として、春から夏にかけての隅田川の情景をのべて、付近の景物を唄に詠み、浮寝の鳥にかこつけて逢ふ瀬を極めて品よく、綺麗に叙したものです。

長唄
一、水仙丹前

山口恵以子事
藤間 由 以

江戸時代、湯女を抱えた風呂屋が流行しました。風呂屋に通う伊達男の風俗を様式化したものを「丹前ぶり」、その丹前ぶりを取り入れた舞踊のことを「丹前もの」と言います。

水仙丹前は「丹前もの」のひとつで、元禄風に華やかに柔らかく舞い、後半では毛槍を使って派手に踊ります。今回は伊達男でなく女の姿で踊ります。

藤間由以さんは、東京・有楽町にある新聞事業組合の社員食堂で調理士として働く傍ら、二〇〇七年に『邪剣始末』で作家デビューをされ、二〇一三年に『月下上海』で第20回松本清張賞を受賞されました。この受賞でテレビ・新聞等マスコミで「食堂のおばさん」と脚光を浴び、八面六臂で忙しい中をお稽古に励んでいます。

長唄

一、橋弁慶

弁慶 藤間 匡志
牛若丸 市谷 雪乃

謡曲の「橋弁慶」を能仕立に舞踊化したものです。武蔵坊弁慶が五条橋で牛若丸に出会って、大いに闘った後、主従の契りを結ぶという筋です。弁慶役は、市谷雪乃さんのお兄さんです。

清元

一、吉野山

忠信 藤間 雄太郎
静 本山 愛

静御前が、吉野山に隠れている義経を慕って訪ねて来ます。ストーリーでは、実はお供の忠信は、静御前が持つ初音の鼓の皮になって狐の子どもである設定になっています。

静御前が鼓を打ちますと、はぐれてしまった忠信がどこからともなく現れます。続いて「壇の浦の源平の奮戦」を語るシーンの見所となります。

清元

一、傀儡師

藤間 綾祥朱

傀儡師とは、首に箱を掛けて、その箱の中から土の塊りで作った小さな人形を出して舞わせて見せる放浪の街頭芸人です。

三人子宝、お七、弁長、義経など、さまざまな物語の人物を踊り分けて、変化に富んでいますので、踊る難しさがあるものの、楽しく観ることができましょう。

長唄

一、二人椀久

椀久 藤間 綾由貴
松山 藤間 亜寿賀

主人公椀屋久右衛門（芝居では久兵衛）は、延宝の頃実在した豪商で新町の傾城松山に馴染を重ね、大金を浪費したといいます。見かねた親戚縁者は椀久を牢座敷に入れてしまいました。彼は松山恋しさのあまり狂気して牢をぬけ出して放浪したといえます。

この作品の振りは、狂いさまよう椀久が松山の幻を見、以前を思い出しますが、やがて松山の幻は消え、ひとりわびしく残されるといふ夢幻的な作品です。

清元

一、茶筌売り

茶筌売り 藤間 仁章
大原女 藤間 綾

逢坂山新関の場で、崇徳院の胤を奪わんとする清盛が新関で捕手の関原藤太に守らせているところへ、茶筌売りと大原女が出て、藤太の前で座頭と替女の踊りを見せて藤太を籠絡します。のちに松の精、梅の精の本性を現して崇徳院の胤を宿した白峯の内侍を救います。

今回は茶筌売りと大原女の振りを抜粋して踊ります。



賛助出演
藤間 亜寿賀

「二人枕久」松山



特別出演
藤間 仁章

「茶筥売り」



藤間 雄太郎

「城」
「吉野山」忠信



藤間 匡志

「城」
「橋弁慶」弁慶



藤間 寿三智

「扇獅子」芸者



藤間 綾祥朱

「傀儡師」



小久保 結

「三ッ面子守」



秋山 萌々音

「あやめ浴衣」



水戸 麻理菜

「新鹿の子」



藤間 由か梨

「都鳥」



鈴木 明音

「玉兔」



古屋 璃瀬

「扇獅子」半玉



市谷 雪乃

「橋弁慶」牛若丸



本山 愛

「吉野山」静

伝統文化こども教室「音鼓ねこの会」



和田本 鈴子

「えひがき」



松下 恋々

「えひがき」



内藤 果和里

「えひがき」



寺平 朋美

「えひがき」



松下 莉子

「関の小万」



立木 紫那

「関の小万」



加藤 優花

「関の小万」



大木 有美

「関の小万」



鉾木 綾音

「菊づくし」



和田本 京子

「菊づくし」



澤村 栞凜

「菊づくし」



渡辺 笑真

「菊づくし」



加藤 紗彩奈

「元禄花見踊」



鎌形 希海

「元禄花見踊」



南 真梨菜

「元禄花見踊」



西澤 幸子

「元禄花見踊」



松田 貴奈

「元禄花見踊」



小久保 凜

「君が代松竹梅」



井上 智菜

「君が代松竹梅」



長谷川 あゆ美

「君が代松竹梅」



宮内 麻名

「元禄花見踊」



佐藤 朱音

「元禄花見踊」



南 桃夏

「君が代松竹梅」



朱島 笑花

「君が代松竹梅」



森 優季

「君が代松竹梅」



中川 茉南

「君が代松竹梅」



田村 夏子

「君が代松竹梅」

長 唄

唄

杵屋 巳津也

杵屋 巳之助

杵屋 佐喜

三味線

今藤 長龍郎

柏 要二郎

松永 直矢

清 元

浄瑠璃

清元 梅寿太夫

清元 喜美太夫

清元 成美太夫

三味線

清元 紫葉

清元 静二郎

清元 成太郎

囃 子

望月 朴清

○

望月 左之助

望月 太意之助

望月 左太寿郎

望月 左喜十郎

望月 秀幸

○

鳳聲 晴之

スタッフ

舞台 国立劇場舞台技術部

大道具 歌舞伎座舞台株式会社

照明・音響 (株)パシフィックアートセンター

テープ編集 松平二郎

衣裳 松竹衣裳株式会社(荒川)

かつら 鍛冶

床山 酒井

小道具 萬米舞踊小道具(鈴木美紀雄)

顔師 新井文雄

狂言方 渡辺雅

つけ打 渡辺幹益

後見 坂東久三之助

後見 佐藤孝

写真 スズキキ

ビデオ 舞ビデオ

アナウンス 本山純子

事務 梅澤良行

印刷 清水美輝

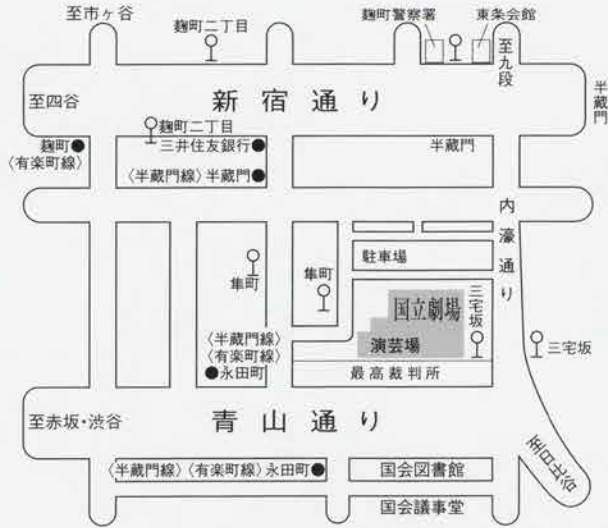
ダイコオー企画



国立劇場ご案内

東京都千代田区隼町4の1

☎ 03 (3265) 7411



- 地下鉄 半蔵門線〈半蔵門駅〉1番出口徒歩5分
有楽町線・半蔵門線・南北線〈永田町駅〉
4番出口徒歩8分・2番出口徒歩10分
- 都バス 都03 (晴海埠頭-四谷駅前) 〈三宅坂〉徒歩1分
宿75 (新宿駅西口-河田町-女子医大-四谷駅前-三宅坂)
〈三宅坂〉徒歩1分
- 駐車場完備 (終演まで普通車500円)

主 補

催 導

藤 藤

間 間

仁 章

綾 章

東京都武蔵野市八幡町四一―二四―七
TEL (〇四二二) 五三一―三三二〇

藤 間 綾由貴

東京都台東区根岸五一―十一―十
TEL (〇三三) 六三二―二一九七四四